

特別天然記念物のトキとの共生型農業を 都市住民との交流材料として活用

新潟県：佐渡^{さど}トキの田んぼを守る会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

水田を中心とした農村環境の保全と活性化

【経緯】

日本最後の野生のトキ生息地であった佐渡に、トキを復帰させる目標が示され、トキとの共生型農業の実践と農家への拡大、消費者や学生の交流受け入れを通しての生態系再生と食のつながりのPRなどを進めるために、活動を開始した。



佐渡トキの田んぼを守る会

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】水田魚道（波付きポリエチレンパイプ）

【活用した事業等】市単事業

【保全対象生物】トキ、トキの餌となる水域生物

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 生態系再生を目指した環境整備

- ①ふゆみず田んぼや江（水田内の深み）、魚道設置
 - ・1年を通して、生物多様性に配慮した水田環境の再生への取組み

2. 生きもの調査の実践及び指導

- ①トキを主とした水田の生態系の把握
- ②講師として佐渡地域の生きもの調査への参加
- ③子供の環境学習の場として生きもの調査の実施
- ④環境と食の繋がりでの体験学習

3. 無農薬・減農薬米の生産と販売

- ①無農薬、減農薬栽培によるブランド米の販売



設置した魚道



江の維持管理

○継続した活動でこんな効果が！！



ふゆみず田んぼの様子

■都市部との交流

・都市部と生産者との交流が進むことで、過疎・高齢化、観光客の減少などの課題が大きい佐渡において、交流による都市人口の来島は観光の活性化にもつながり、地域の活性化に大きな役割を果たしている。

■ブランド米として販売

・ブランド米として販売している「トキヒカリ」「朱鷺と暮らす郷」の販売を通して、情報発信する中で、日本の主食の生産現場である水田と環境の相関関係に理解が得られている。さらに、ブランド米の購入によってトキの保護募金にまわる仕組みを確立している。

○課題・苦労した点

■保全活動の経験不足・知識不足等

・専門的な知識や経験を教えられるメンバーがいなかったことが苦労した。

■都市部の消費者へのPR活動

・生きもの保全活動への理解や協力を得ることが課題だった。

○工夫した点

■先進地への研修・情報交換

・効果的な保全活動のために、先進地区との連携を図る。また、外部から指導者を招き、勉強会を開催して知識を向上させた。

■消費者との交流

・生きもの調査・草取りツアーを通じて消費者との交流を図った。

○活動の特徴！！

■特別天然記念物の保全と地域活性化

・都市部の消費者を巻き込んだ保全活動を展開することで、環境の保全だけでなく、地域の活性化にまで効果が広がっている。



○団体の概要は？

- ・平成13年度に設立され、活動エリアは新潟県佐渡市の中央部（旧新穂村、金井町（金沢村）、両津町、真野村辺り）である。
- ・任意団体で、人数は24名。
- ・年間運営費は、会費58%、事業収入42%となっている。
- ・年間活動日数は、約20日である。

